

1. 応募の動機・理由を簡単にご記入ください。

家庭科の中でも、特に「住生活」についての学習は総合的な捉え方が必要だと考えています。「家庭基礎」(2単位)では住生活分野は6時間程度しかとれないのが実情で、この少ない授業数の中で、分かりやすく効率的な学習が期待できるICTの活用と生徒が主体的に考える手法としてのアクティブラーニング(以下AL)を用いて、家族が快適に生活できる空間を保育分野と関連させて学習させたいと思ったためです。

2. 学習予定の概要を以下の3点について記入してください。

(A中心となる活動, B授業のねらいと特徴, C学習の流れ(指導計画))

A 中心となる活動

ICTを用いて基礎的・基本的な住生活について学び、ALの手法を用いて乳幼児がいる家族を想定した平面図の計画や住まい方について考える。

B 授業のねらいと特徴

- ①それぞれ異なる住生活を送っている生徒達が、主体的・協働的に学ぶことによって表現力や課題解決能力を身につけ、多様な住まい方があることを認め合える。
- ②平面計画に必要な基礎的・基本的な知識と保育分野とを関連させることで、乳幼児の安全な住まい・住まい方について具体的に考えることができる。

C 学習の流れ(指導計画)

1時間目:「住まい」についてのイメージマップを書かせ、生徒の住生活の捉え方を視覚化する。

パワーポイントを用いて、住まいの役割や歴史、気候風土に応じた住まいについて学習する。

2時間目:平面計画に向けて、平面表示記号や動線、日照・採光、通風と換気等について学習する。

3~5時間目:ALの手法を用いて、乳幼児がいる家族を想定した平面図の計画や住まい方について考え、グループごとに発表しクロストークをおこない、乳幼児の安全な住まい・住まい方について理解し、ライフステージで住まい方がかわることを確認する。

<エキスパート活動の内容> A:居心地のよい空間づくりについて

B:人とももの寸法、収納について

C:住まいの安全について

D:乳幼児の安全な生活について

6時間目:パワーポイントを用いて、住まいと社会環境について学ぶ。「住まい」についてのイメージマップを再度書かせ、自分の住生活の捉え方が初めとどのように変化しかた視覚化する。

3. 今までに住まいやまちに関する学習を行ったことがありますか。

○1 ある                      2 ない

1の方は学習の内容について、ガイドラインの該当する領域に○をつけてください(複数可)

- 1 人と住まい
- 2 住まいの空間と構成
- 3 住まいと社会
- 4 住まいと環境

その他特記事項がありましたらお書きください。

特になし